

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価計画書】

堺市立若松台小学校
校長 藤木 敦史

中学校区におけるめざす子ども像

自己を高めようと努力し、自ら学び続ける子 ～教科教育・総合の学習の時間の中で「探究」と「対話」する活動を通して～

令和7年度 重点目標

「読解力」を向上させ、対話できる子どもの育成 ～相手のことを考え、自分の考えを伝える活動を通して～ 「聞き合う」「話し合う」「考え合う」「つながり合う」

「確かな学び」の現状

各種調査の結果より、国語科においては、読書が好きという児童の割合が市平均と比べても増えているが、学習場面での「読むこと」に関する関心が低く、要約する、資料を結び付けて考えるなどに課題がある。また算数においては、問題の解き方や考え方をわかるようにノートに書いている児童が多いが、資料の読み取りに課題を感じている児童が一定数いる。児童用端末を使っでの学習活動は定着してきている。朝学習などで基礎学力定着に向け取組を充実させるとともに、国語科においては、「読解力の育成」に取り組み、資料を用いた説明文の読み取りやノート指導に力を入れる。向上した「読解力」を活用し、相手のことを考え、自分の考えを伝える「対話」ができる子どもたちの育成をめざします。

「豊かな心・健やかな体」の現状

アンケート調査より、学習や対人関係に起因した不登校傾向にある児童が増えてきている。児童と関わる時間を確保したり、学習におけるペア交流やグループ交流を取り入れる設定や異学年・同学年での交流など他者を意識しつながら仲間づくりを意識した取組を進めていく。また、総合的な学習において自分たちの町を意識した取組を系統的に進めていることで、地域との関わりに関心をもつ児童の割合が増加傾向にあるため引き続き取り組んでいく。体を動かすことが好きな児童も多く、休み時間には運動場で元気に遊ぶ姿が多くみられる。道徳教育、国際理解教育を推進していくことを軸として、人とつながりを大切に、多様性を認めあい、人権が尊重されていることを実感できるよう、学校全体で人権教育に取り組む。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組、★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～11月)	達成状況(年度末)	
								自己評価	学校関係者評価
確かな学び	学びの基礎 力の向上	基礎基本の学力を育成し、学ぶことを楽しみ、自ら学ぶ子どもの育成	●★児童の読解力の育成に努め、「主体的で対話的で深い学び」をし、授業改善に取り組む。朝学習や自主学習ノートを活用し家庭での学習習慣の定着を図る、さらに読書活動の充実に取り組む。	教科研修と年3回の研究授業、2年生以上自主学習ノートの活用読書活動(朝読と図書貸出冊数、アンケート)の変化	ノートと貸出冊数・アンケート	年度末	B ・今年度も「読解力」について研修を実施している。 ・朝読を全校一斉に実施することができていない。 ・宿題の量や内容についても検討が必要である。	B 教科研修・研究授業・中学校とこども園で相互参観するなど研修を充実させた。 ・昨年度よりも貸出冊数は増えたが、朝読書の徹底や啓発の取り組みに課題がある。	A ・今後も中学校や就学前施設との連携研修を充実させて学力向上に努めて欲しい。 ・読書意欲が昨年度より20%も改善しているので、さらに向上できるように、本に興味を持てるような「きっかけ」づくりに努めて、読書習慣をつけて欲しい。
	総合的な学力向上	個別最適な学び、協働的な学びを追求し、総合的な学力を身に付けた子どもの育成	●★さまざまな授業の中で学びのコンパスなど探究的な学びを推進し、総合的な学力の向上を進める。学校群内の学校との交流や地域学習等の総合的な学習に取り組む中で、「対話」のできる子どもの育成をめざす。	公開授業・学習発表の実施 アンケート肯定率や活用力の比較	学力調査・学校アンケート	年度末	A ・学校群として公開授業を3回実施し、3小学校の教員が協議会で意見を交わし、授業改善に取り組んでいる。 ・学校群内の児童生徒の交流も積極的に進めている。	A 高学年を中心に、学校群内の交流を積極的に活用し、相手意識を持ちながら、学習をすすめることができた。対面やオンラインなどをさらに活用し、対話を充実させた。	A ・同じ若松台中学校に進学する子どもたちが、何度も「交流」を持てる機会を設定していることが、中学校への円滑な接続につながっている。中学校に通う子どもたちからも、安心感が伝わってきているので、続けて欲しい。 ・先生方の人員不足解消や、働き方改革にもなっていると思う。また、複数の先生方が子どもたちに関わるいい機会になっていると思う。担任の先生が子どもたちに向き合う時間が増えることが望ましい。
		ICTを活用した学習を進め、情報活用能力を向上させる	学習者用端末を教科、総合的な学習や家庭学習において活用し、情報モラル・情報活用能力を向上させる。また、学習者用端末を活用し、「探究する」授業づくりに取り組む。	自校教員、若松台中、上神谷小、教員による授業の実施と、共同授業研究や合同研修での連携	実施状況・アンケート	年度末	A ・外国語部会を中心に9年間を見通した系統的なカリキュラムを開発に取り組んでいる。 ・兼務教員が授業を順調に実施できている。	A 共同授業研究の初年度として、中学校・こども園との相互参観が実施できた。	A ・5年生の防災学習のまとめは、とつてもわかりやすくまとめることができた。 ・今後も児童用タブレットやCLASS CLASSなどのアプリなどを活用して、子どもたちの学習意欲が向上につなげて欲しい。
豊かな心・健やかな体	生活習慣の確立と 自尊感情の育成	さまざまな体験を通して、人とのつながりや思いを知り、自他ともに大切にすることを育てる	特別の教科道徳の授業を要とし、他の教科等との関連を図りながら道徳教育・人権教育の充実を図る。	道徳の教科書や副読本の効果的な活用と公開授業の実施	アンケート	年度末	A すべての学年で他教科と関連づけた道徳の授業を実施している。	A ・いじめ事案の早期発見・早期解決に努め、チーム若松台で組織的に迅速に対応することができた。そのため重大事案の発生はなかった。	A ・通級指導教室やリソースルームなどを活用して、子どもたちが安心して学習に取り組めるように期待しています。
		健康・安全に関する認識を高める。体力の向上を図る	●いじめ事案の早期発見・早期解決に努め、組織的に対応し、人権教育、特別支援教育、集団づくり、なかよしタイム等の取組を通して、自他を大切にすることを育てる	研究授業の実施と人権にかかわるアンケート項目の肯定率が90%以上	アンケート 児童観察	年度末	A ・学期ごとにアンケートを実施し、早期対応・早期発見にチーム若松台で取り組んでいる。 ・異学年交流の充実を図っている。	A ・100%の児童が「いじめはどんな理由があってもいけない」と思っている。	A ・先生方の人員が確保されて、子どもたちと向き合える時間が増えると、さらに自尊感情を向上させることができと思う。
		健康・安全に関する認識を高める。体力の向上を図る	食育・防災を含む安全教育を通して、健康で安全な生活ができる力を育てる。	健康や安全にかかわる取組状況。その関係のアンケートの肯定率	アンケート	年度末	A 総合的な学習の時間などを活用して、食育や防災教育を実施している。	A ・総合的な学習の時間などを活用して、食品ロスや防災について考え、啓発活動にも取り組めた。	A ・地域の人々の学びや思いを題材に学習をすすめることや、地域に働きかける学習をすすめることで、地域に愛着を持って育って欲しい。
		健康・安全に関する認識を高める。体力の向上を図る	行事や屋外での遊び等を通して、体を動かすことの楽しさを体感させ、体育授業に積極的に取り組む児童を育む	「体育授業に積極的に取り組む」アンケート肯定率80%以上	アンケート 調査結果	年度末	A 大縄大会やアスレチック体験などを実施し、体を動かす機会を多く設けている。	A ・85.8%の児童が「体を動かして遊ぶことは楽しい」と肯定的にとらえている。	A ・高学年や体育委員が、体を動かすことが楽しくなるように、機会を設けていることはとてもいい取り組みだと思う。
独自の課題	豊かさに 若松台学校群	ちがいを認め合い、互いに助け合う態度を育てる	外国にルーツにある児童を含めすべての児童が様々な国の文化や人々を理解し尊重する多文化共生の心情を育てる国際理解教育を推進する。	国際理解教育の取組の内容と回数、日本語指導の状況	実践報告 公開授業	年度末	B 香港からの修学旅行生を受け入れ、5年生が代表して交流を実施した。また、中国にルーツのある児童が交流の司会を担当し、活躍していた。	B 日本語指導教室を設置し、学習習慣や学習言語の獲得に取り組んだ。次年度は、全学年で国際理解教育を実施したい。	B ・体育大会で中国語のアナウンスをしていることや、国際理解教育に取り組んでいることは、若松台小学校の伝統であり、素晴らしいことなので、是非続けて欲しい。来年度、さらに取り組むとのことで、期待している。
		若松台学校群として取り組み、児童と教職員がともに輝く学校に	●★学校群での取組を進め、カリキュラムマネジメントを充実させ、児童の「交流」を意識した教育活動や働き方改革に伴う授業時数の平準化、行事の精選を行い、効果的な教育活動を実践する。	実施状況とアンケート	取組の検証とアンケート	年度末	B 5年生の宿泊学習での合同キャンプファイアー、6年生の連合運動会の合同練習など、今年度も積極的に「交流」を実施している。昨年度より交流の時間や内容を充実させることができています。	B 例年実施している「交流」は実施できたが、全学年で系統的な交流を実施することや、行事の精選や効果的な教育活動を実施できなかった。目的を明確にし子どもの学びに寄り添った交流・活動を実施したい。	A ・学校群の「交流」は、中学校入学前、何度も子どもたちが接するいい機会であり、中学校への接続が本当にスムーズである。 ・「交流」を実施することで、子どもたちが日ごろの学習の成果を発揮する機会が増えている。是非続けて欲しい。

校長より(年度末)

全学年の子どもたちは、明るくのびやかに学校生活を送っており、認められたり、助言を得たりすると、意欲を持って行動に遷ることができていた。全国や堺市の学力テストの結果や、日々の授業態度からは、3つの必要性が考えられる。①子どもたちと「何のために学ぶのか」「何を学ぶのか」「何が問われているのか」等の目的や意義の共有 ②学んだ知識と今までに学習した知識を関連づけて新しい知識を獲得する体験の場の設定 ③「知りたいな」「この場合はどうなるのかな」「試してみたいな」という意義をもたせること 来年度はこの3点を実践して、子どもたちと学びのゴールイメージを共有し、自ら「問い」を持たせ、学び方や学びの場を選択し、OUTPUTする活動を充実させ、全教職員のチーム力で学力向上を図る。

学校関係者評価者から(年度末)

学校群の「交流」や合同研修・相互参観は、子どもたちがスムーズに中学校に進学できるためのよい機会になっている。先生方の働き方改革になり、子どもたちに向き合う時間が増えるように、うまく活用して欲しい。また、来年度の読書意欲向上や国際理解教育の充実に向けた取り組みに期待している。